

第13回全国やまゆりサミットin行方

「やまゆりに 集いて結ぶ 地域の輪」

やまゆりで地域づくりを目指す！

この山林を所有している関野謙一さん（全国やまゆりサミット会長）が育成を続け、10年前から一般公開し、自生地の保護、拡大を図ってきました。見学者から、その見事に驚きの声が上がっていました。

14日の午前中は、「井上やまゆりの里」と「借宿やまゆりの里」の現地視察見学会が行われました。井上地区「やまゆりの里」には、全国最大級の自生地約2ヘクタールがあり、最盛期には約二万本のやまゆりが咲き誇ります。

現地視察見学会

全国のやまゆり愛好者らが集う「第13回全国やまゆりサミットin行方」が7月14・15日、行方市文化会館などで行われました。全国から集まった12の愛好者団体関係者や一般の方を含めて約400人が参加。やまゆりを活かした地域づくりや、自然環境などについて話し合われました。

また、西蓮寺本堂での昼食では、「井上・やまゆりの会」の皆さんによる地元の野菜や冷たい飲み物のおもてなしがありました。たいへん好評でした。

小学生による鉢植え栽培の体験発表



地元小学生による鉢植え栽培の体験発表

午後の記念講演では、福島市花見山公園オーナールの阿部一郎氏が「平成の花さかじいさん奮闘記」花に教わって70年」と題して登壇。次に地元小学生による鉢植え栽培の感想発表が行われました。発表者は、坂本麻純さん（麻生小6年）・池田重沙美さん（栗小6年）・金塚親亮さん（玉川小6年）・名島大貴さん（玉



パネラーとして参加した谷田満子さん（右）（井上・やまゆりの会副会長）

シンポジウム（情報交換会）

パネルディスカッションでは、6愛好者団体代表者がパネリストとなり、関野会長がコーディネーターを務め、それぞれの団体から活動などが紹介されました。15日は自由見学となりました。



おそろいのTシャツを着た「井上・やまゆりの会」の皆さん

川小6年）・斉藤あかねさん（玉川小6年）・田山綾菜さん（玉川小6年）の6名。玉川小学校の児童からは「これからもやまゆりをいっぱい増やし、未来に残してたくさんの人にやまゆりの里を知ってほしい。市の花でもあるので、やまゆりを大切にしていきたい」と発表がありました。

今回のサミットを契機に、自然の素晴らしさと大切さを子や孫の代に残していくため、やまゆりを活かしたまちづくりを目指します。

行方市の花は、平成18年に「やまゆり」に制定。やまゆりはユリ科の中でも最大級であり、その香りは甘く濃厚で「ニオイユリ」の別名をもつほどに、高貴で華麗な姿と芳香をあわせ持つことから、「ユリの王様」と呼ばれているそうです。

昔は野山に咲き誇っていたやまゆりですが、乱獲や自然環境の変化によって減少し、最近では自然に群生するやまゆりを見かけることが少なくなりました。



【市の花】
ヤマユリ
（山百合）



【市の木】
イチョウ
（銀杏）



【市の鳥】
シラサギ
（白鷺）